

令和6年度 江戸川区立第四葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○豊かに育つ四葛西っ子 ・元気な子 ・やさしい子 ・よく考える子 ・やりぬく子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○家庭・地域に開き、共に歩む学校 ○友達と共に学級、学年、学校の文化を創り、発展させていく児童 ○組織的に教育活動を推進しつつ、自らの向上を図る教師	
前年度までの本校の現状	成果	<p><成果> 3年生以上による教科担任制の効果的な運用をさらに充実させた。学習指導要領の理念に基づき、授業改善に取り組み教師の授業力向上を図った結果、児童の学力向上が見られた。本校の教科担任制の取組について、他地区の学校や研修等で積極的に情報発信した。また、学校教育目標や学校経営方針の具現化をめざし、校務分掌組織を見直し、全教職員で推進した。</p>		課題	<p><課題> 引き続き、児童の実態および教育的課題を的確に把握し、学習指導要領を踏まえて具体的な活動を設定していく必要がある。人事異動等の校内の人材が入れ替わることを想定して、今後も継続して組織的な人材育成に取り組めるようにする。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学力の向上 ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制の効果的な運用と、校内研究による教員の指導力の向上 江戸川区学力調査の実施（3年生以上12月） 区定着度調査、学習カルテ、東京ベーシックドリルを活用した、基礎基本の定着 よむYOMUワークシートの実施（年間30回） 放課後補修教室の実施（年間150回以上） 一人1台端末を活用した授業の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査の結果が、全国平均正答率を上回る。 CD層児童の基礎基本の定着と基礎的な学力の向上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制の効果的な運用に向けて、9月までに第6学年、第5学年、第2学年の研究授業と授業公開を実施し、授業力向上を図った。 東京ベーシックドリルは2回実施し、基礎基本の定着を図るとともに児童の実態を把握し、日々の指導に生かしている。 よむYOMUワークシートは9月まで11回実施した。 放課後学習教室は9月までに62回実施した。 オクリンクプラスの授業での活用の仕方に関する校内研修を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学級の教員に見守られる中で、子供たちは安心して学校生活を送っている。引き続き、学力向上に向けて取組を充実させてほしい。 放課後学習教室で、算数の基礎基本を復習できることはよいと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間4回の研究授業と94回の授業公開を実施し、教員の指導力向上に向けての取組を充実させることができた。全国学力学習状況調査の結果は、全国平均を上回るには至らなかったが、取組を継続し、令和8年度までに目標達成を目指す。 区定着度調査、学習カルテ、東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図った。 よむYOMUワークシートを年間30回実施し、読解力の向上を図った。 一人1台端末を活用した授業に向けて研修を3回実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 6年生の学力学習状況調査にて東京都の平均に3年前から徐々に近づいてきている結果を見た。まさしく少人数制の効果だと思う。次回調査結果が楽しみである。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の校内研究は、教科担任制を軸にし教師の指導力、児童の学力向上を図る。さらに児童の主体的な取組や、主幹・主任層の研修を充実させ、学年経営の充実を図る。 区定着度調査、学習カルテ、東京ベーシックドリルの取組を年間計画に明記し、算数少人数の授業で繰り返し、練習問題に取り組む。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の実施、充実を図り、より深く追求しようとする生涯教育の基礎となる能力を培う。 週3回15分の朝読書実施による読書の習慣化 図書委員会による、江戸川区蔵書管理システムを活用した本の貸し出しや図書館整備、ポスターによるおすすめの本紹介、全校集会での読書の呼びかけなど、読書推進活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の実施回数 読書科コンクールへの応募状況 	<ul style="list-style-type: none"> 9月までに朝読書を36回実施した。 調べる学習コンクールへ参加した。 江戸川っ子読書科コンクールへの第5学年、第6学年の参加を計画している。 図書委員会の児童による、本の貸し出し、図書館整備の常時活動を行っている。10~11月の読書週間に向けて準備を進めている。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生で朝読書の時間に読み聞かせを行っている。保護者もさらに協力したい。12月に3年生での活動の機会があると聞いているが、子供たちの読書活動がさらに充実するよう期待している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の協力もあり、1~3年生までの読み聞かせを実施することができた。 夏の自由研究を通して、調べる学習コンクールへの参加を増やすことができた。 江戸川っ子読書科コンクールへの取り組みを高学年を中心に実施した。 図書委員会の児童による、本の貸し出しと、図書館整備の活動は、年間を通して充実した取り組みになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせや読書活動の推進により、子どもたちが本に親しむ機会を多くしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる読書の習慣の確立に向けて、校内や家庭での読書の時間の確保、教員向けの読書科指導を充実させる。 	
	○外国語教育の推進 ・授業力の向上とALTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 外国語専科の配置、イングリッシュウィークの設定 ALTとの授業…外国語（年間70h）、外国語活動（年間35h） 	児童の基礎的な学力の向上とコミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 2月に実施するイングリッシュウィークに向けて準備を進めている。 9月に、外部講師5名を招き、イングリッシュキャラバンを実施し、外国語のコミュニケーションの向上を図った。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校で行っている取組はよい。ALTや外部講師と英語でコミュニケーションを図れる機会が充実している。子供たちは外国語の授業を楽しみにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月のイングリッシュキャラバン、2月のイングリッシュウィークの取組は、ALTとも連携し、例年以上に充実させることができた。 ALTの授業は、計画通り実施し、コミュニケーション能力の向上を図れた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> イングリッシュウィークでの体験的な活動がとても楽しかったと聞いている。次年度もぜひ、継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度もイングリッシュキャラバン、イングリッシュウィークの取組を計画し、本年度の取組を継続する。 	

体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上 ・体育の授業や、休み時間におけるなわ跳びの取組など、運動に主体的に取り組む機会の設定による運動意欲の向上	・体育の授業における「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 ・体力テストの実施と体力テストに向けた体力向上の取組 ・なわとびチャレンジウィークの実施（年間3回6月、12月、1月）	・体力テスト結果の向上 ・なわとびチャレンジウィーク後の意識調査の結果の向上	A	A	A	・6月の体力テストに向けて、様々な運動に慣れ親しむ活動を行った。また、体力テスト前には、なわとびチャレンジウィークを実施した。 ・9月に体育部の教員を中心に、校内で「主体的・対話的深い学び」の視点に沿った授業作りの研修を実施した。	A	・様々な機会を通して、子供たちの体力の向上を促してほしい。今年は年間を通して、なわとびの活動が計画されていてよい。	A	・2学期、3学期のなわとびチャレンジウィークも充実した取組となった。なわとびパフォーマーの出前授業は全学級で実施した。 ・体育部を中心に、各学年の体育の学習は「主体的・対話的深い学び」の視点に沿った充実したもとなった。	A	・ベア学年でなわとびに取り組む時間も、活動時間の充実が図れていたのではないかとと思う。体力向上につなげてほしい。	・なわとびチャレンジウィークは年間3回実施する。異学年の交流のさせ方など、さらに取組を充実させる。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○特別支援教育の推進 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援研修会実施 ・支援委員会…毎月	実施回数および研修会への参加	A	A	A	・区内拠点校との連携により、特別支援研修会を1学期に1回実施した。 ・エンカレッジルームを活用しての児童への個別支援を充実させている。 ・毎月、支援委員会を開催し、副籍交流等の充実を図っている。	A	・SCや特別支援教室など、個別の児童に対する支援を継続してほしい。	A	・毎月、支援委員会を行い、支援が必要な児童の対応については、全教職員で情報共有し、共通理解を図りながら組織的な対応を充実させることができた。	A	・ダイバーシティの視点を継続して、児童に伝えてほしい。	・次年度も、区内拠点校と連携し特別支援研修会を実施できるよう計画する。 ・支援委員会は年11回実施し、支援の必要な児童の対応について組織的に対応できるようにする。
	○たんぼぼ学級との連携 ・弱視学級と連携した指導の充実と弱視教育への理解	・弱視障害理解教育実施（第3学年）	在籍児童への理解向上	A	A	A	・9月に第3学年を対象として、学級ごとに弱視障害理解教育を実施した。	A	・引き続き、毎年実施してほしい。	A	・2学期には、全盲のバリリンピアンの講演会を実施した。さらに視覚障害の理解につながる取組となった。	A	・児童にとって、とても良い機会が設けられたことに感謝している。	・弱視理解教育は、次年度も引き続き3年生で実施し、その取組を充実させる。
不登校・いじめ対応の充実	○子どもたちの健全育成に向けた取組 ・不登校対策の実施、充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実、研修会の実施 学期1回 ・スクールソーシャルワーカー、生活指導連絡協議会の活用	実施回数および研修会への参加	A	A	A	・いじめ防止に関する研修会を実施した。 ・校内対応組織についての共通理解を図った。 ・生活指導連絡協議会での情報を、生活指導夕会で校内に共有した。 ・hyper-QUの活用の仕方について研修を行い、分析の仕方の理解を深めた。	A	・SNSの適切な使い方や、危険性については、しっかりと指導してほしい。保護者への啓発もあわせてお願いしたい。	A	・いじめに関する授業は、各学級で実施した。 ・2月の学校公開では、5年生でSNSの使い方に関する授業を実施した。 ・hyper-QUの学校生活満足度は、学年が上がるに伴い向上した。複数教員に見守られて安心して学校生活を過ごしている児童が増えてきている。	A	・児童一人一人への確実な支援を今後も継続してほしい。	・いじめに関する授業の実施は、次年度以降もさらに継続して実施する。
地域社会に開かれた学校（園）の実践	○自校の取組の積極的な発信 ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・日々の教育活動や学校行事の様子を、「学校日記」に写真と共に掲載し発信 ・保護者に学校公開（年間3回）、運動会や音楽会の公開	学校日記掲載回数 公開等の実施回数	A	A	A	・週に1回以上、日々の教育活動の様子について発信している。 ・6月に運動会を公開した。 ・9月までに学校公開を2回実施した。	A	・運動会や学校公開等、保護者が来校する機会が定期的に設定されている。	A	・給食を中心に、毎日学校の様子を発信した。宿泊体験については、様子を詳しく伝えられるようにした。 ・運動会、展覧会、学校公開3回を実施した。	A	・学校だよりを見ることで子どもたちの学校生活が目につく。また、先生方の子どもたちへの熱心な教育も伝わる。	・今年度同様、様々な機会に学校生活の様子を、発信する。
	○学校関係者評価の充実 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員を交え、学校関係者評価報告書を活用した教育活動の改善・充実に向けた協議の実施	協議の実施時期の設定	A	A	A	・6月15日土曜日の学校公開日に合わせて、学校評議員会を実施し、児童の学ぶ姿をご覧いただき、ご意見をいただいた。	A	・子供たちの活動の様子がよくわかり、よい機会となっている。	A	・土曜日の学校公開日に合わせて、学校評議員会を実施し、児童の学ぶ姿をご覧いただいた。学校評価と合わせて、ご意見をいただいた。	A	・学校評議員への連絡も定期的に届いている。	・区の規定に沿って、今年度と同様に学校公開を実施する。

現	<p>○地域連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を愛する心、伝統を受け継ぐ心をもった「えどがわ大好き」な児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・海苔すき体験（第3学年） ・米づくり等の体験（第5学年） 	<p>学年の総合的な学習の実施時間</p>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・さざなみ会と連携し、第5学年で5月に稲狩り、9月に稲刈りを実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域も連携し、さらに取組を継続させていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・さざなみ会と連携し、9月以降は、5年生の餅つき体験や、3年生の海苔すき体験を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・街中で出会って挨拶してくれる。 ・朝の挨拶、まだ恥ずかしさがあるのかできない子が見られる。こちらから挨拶すれば返してくれるので、次回から期待したいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、同様にさざなみ会と連携し取り組みを充実させる。
教育の展開 特色ある	<p>○グリーンアドベンチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な樹木とのかかわりを通しての異学年集団交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年集団（年間6回） ・学年（年間2回） 	<p>異学年交流の実施回数</p>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・9月までにグリーンアドベンチャーを3回実施し、異学年交流を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特徴を生かした活動が行えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12月にグリーンアドベンチャー検定を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を越えた児童が関わりをもつ機会は、とても良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から6年生までが縦割り班で関われる貴重な機会となるため、より異学年での交流が深まるような活動を設定する。
	<p>○教科担任制の更なる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教科担任制の取組の積極的な発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部への積極的な発信 	<p>他校、他地区からの視察や、資料や情報提供</p>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・6月11日に船橋市教務主任研修会が、本校の授業を視察し、その後、本校の取組について情報提供した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・広く取組を発信していることは素晴らしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1月には、大阪府茨木市、千葉県船橋市、静岡県清水市から視察があり、本校の教科担任制の取組について情報提供した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信を重ねられていることに驚き、教育への熱意に敬意をいタク。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人事異動等で教職員の入れ替わりがあった際も、本校の教科担任制の取組がより発展したものになるよう、組織的に人材育成に取り組む。